

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500072		
法人名	吉村商工 有限会社		
事業所名	グループホーム風の丘		
所在地	宮崎県小林市南西方1992-14		
自己評価作成日	平成26年5月7日	評価結果市町村受理日	平成26年7月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年5月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設1年目であるが、職員と入居者が常に寄り添い、家族のようにアットホームな施設作りを目指し、日々入居者と一緒に過ごしています。行事にも地域のボランティアの有志の方々の協力もあり、笑いあり、涙ありの行事が、皆さんの力で一つ一つ楽しい時間を過ごすことができています。職員が一丸となり掲げていることは、入居者の意思を尊重し、その人らしく生活を送れるよう、安全に日常生活の援助をさせて頂くことです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中、少し離れた場所に同法人の施設もあり、折に触れ利用者の交流がある。自治会にも加入し、ホームの夏祭りや行事への協力をおいでしている。また、ホームの敷地内にゴミ集積所を設置し、地域に提供している。職員は、理念を共有し、落ち着いた対応と優しい気持ちを持って心で対応することを常に念頭に置き、ケアにあたっている。利用者の中で介護度が軽減した例があり、開設間もないホームではあるが、ケアの質の高さが伺える。チームでのケアの基本となる職員間のコミュニケーションが良好に図られており、働きやすい環境が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とともに歩み、良質でやさしい介護を提供し入居者中心の介護施設を目指す」を理念に掲げ、職員全員、初心を忘れぬよう、毎朝朝礼で唱和している。	五つの基本方針を掲げ、毎朝唱和することで常に理念を認識し、利用者が地域の中で毎日の生活を笑顔で過ごせるように、職員は理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、夏祭り等、地域の方の協力は得られているが、日常的な交流は少ないため、今後保育園や自治会等を通じ交流させて頂く機会を増やせるよう、検討していく。	自治会に加入し、ホームの夏祭りや行事に協力してもらっている。ホームの敷地内にゴミ集積所を設置し、地域に提供している。ホームの広場は子供の遊び場になっており、利用者との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設1年目はできなかったが、今年度より風の丘だよりを地域の方に向け、回覧板等により発信している。2カ月に1回のペースで更新し、行事等への参加を呼びかけながら、認知症に対する理解をして頂けるよう取り組んでいく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回推進会議を開催している。開催後、管理者・主任間では検討、見直しを行い全職員に報告しているが、全職員での話し合いはできていない為、今後意見の共有が出来るよう取り組む必要がある。	会議では、参加者との積極的な意見交換がある。出された意見の中から実践につながった例もあり、検討中の事案にも随時報告がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題点が出てきた場合、その都度、市の担当者に連絡を取り、相談している。	運営推進会議に毎回参加があり、その場で情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束に対し理解できるよう、マニュアルを作成している。	職員は、身体拘束の内容とその弊害を認識し、利用者が自由な環境の中で過ごしてもらえるよう見守りを重視し、玄関の開錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段の何気ない言葉かけに職員同士で確認を行い気を付けている。入居者本人の意向に添って、無理強いしない介護を心掛けている。研修にも代表者が参加し、研修内容を共有できるよう報告を行い、資料もいつでも確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者がいるが、制度に関して理解している職員は少ない為、今度、制度を学ぶ機会を設けるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、十分な説明をし、契約を行っている。入居後も不安な点、疑問点等は再度説明を行い、理解して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議、面会、電話時等ご家族と話す時間を設けて頂き、家族の意見を確認している。頂いた意見は、職員で話し合う場を設けている。	家族の来訪時に何でも言ってもらえる雰囲気があり、何気ない会話の中から意見や要望を捉えている。小さな意見や要望にすぐに応えるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中で意見交換の場を設けている。現場主任が中心となり、いつでも意見が言えるような環境作りに努めている。	職員が、気軽に意見や要望が出せる信頼関係が出来ている。出された意見や要望が改善策となり、職員の働く意欲の向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員、個人個人の家庭環境を把握し、個人が無理のないシフトで働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を行い参加を呼び掛けているが、参加者が少ないのが現状である。研修の参加を促せるような働きかけを行っていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々なネットワークや勉強会へ積極的に参加し、他のグループホームとの交流、意見交換を行う場を設け、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族に個々の基本情報を書いて頂き、それを基に入居前に家族、本人に面会し、困っていることや要望を聞き取り、ホームでの生活に不安のないような働きかけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、家族との面談も多く行い、入居者だけではなく、家族も安心してホームにまかせて頂けるよう、配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を取り入れ、今現在、利用されているサービス機関との情報交換の場を設け、連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に行ける事は家庭の延長で行っている。 また、季節によってはキンカン煮、漬物作り、ケーキ作り等を教えて頂きながら職員も学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族との時間を大切に過ごして頂けるような環境を作り、遠方の方々、家族には現状報告と写真送付を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、家で思い出のある物を持ってきて頂き、居室に家族との写真を貼り、少しでも落ち着ける環境に近付けるよう、努めている。	家族の来訪が多く、毎日みえる家族もある。同級生や友人、知人の来訪もあり、継続的な交流が出来ている。時にはなじみの店に買い物に行くなど、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事以外でも、フロアに集まって交流できる場を作っている。また、買い物等も同行し、入居者同士の会話を楽しんで頂けるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態の変化等により、当施設を離れられた方に対しては、いつでも相談できるように努めている。こちらからも状況確認の為、家族と連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、会話、行動、表情等により、全てではないが、本人の意向や希望をできる限り把握できるよう努めている。	見守り、寄り添いながら、利用者の行動や表情、職員の問いかけの中で、希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族より書いて頂いた「私の基本情報」を基に、これまでの生活環境を把握しながら支援の参考に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、介護記録、個人記録等を職員が必ず目を通すようにし、入居者一人ひとりの状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当職員が、月一回月評価を作成し、ケアマネージャーに報告している。 本人、家族、職員の意見をケアマネージャーがまとめ介護計画を作成している。	月1回モニタリングを行い、担当者の意見や利用者、家族の思いや意見を反映させた介護計画を作成している。介護計画は、必要に応じて見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践状況を日々の個別記録に記入し、申し送り等を行い、職員間の情報を交換しながら見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の要望に合わせ、他事業所との連携により、最善な方法で要望に応えられるよう努めている。		

宮崎県小林市 グループホーム風の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事を通して様々なボランティアの方の協力を得ている。月一回、傾聴ボランティアの方の来訪もあり、地域資源の活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者と家族が希望する先生にかかりつけ医となって頂いている。受診は施設対応だが、その都度家族と連絡をとっている。	本人、家族希望のかかりつけ医の受診支援を行っている。受診後、その都度家族と連絡を取り、状況報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しており、日常的な健康管理を行い、必要に応じてかかりつけ医とも受診の連携調整を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時介護サマリー等を利用し、情報提供を行っている。 入院中は、病院関係者との連絡を密に取り、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けての方針は、その時の状況、担当医の助言や家族との話し合いを行い、共有していく。	入居時に、重度化や終末期におけるホームの対応の方針や現時点でのホームの体制を説明し、理解を得ている。ホームでは、今後環境が整い次第、看取りを行うことを検討中である。	入居時に、ホームの方針の説明はなされているが、ホームの指針や方針が明記されていない。関係者との話し合いの下に、利用者や家族のニーズをくみ取りながら、体制を整える努力に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成している。急変、事故発生時に落ち着いて対応できるように、職員の勉強会を行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災想定時の避難訓練は実施できている。地域との連携は、常に「火災等の時、協力お願いします」と口頭で連絡をとっている。地域との合同訓練は実施できていない。	年に2回消防署の協力を得て、避難訓練を行い、ホームの自主訓練を年1回行っているが、夜間を想定した訓練、近隣住民協力を呼びかけた訓練が十分できていないといえない。	夜間を想定した避難訓練や近隣住民の協力の下に、訓練が行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に応じた、方言や馴染みのある言葉で対応している。	利用者が使用するトイレにも、音や声が漏れない工夫など、きめ細かな配慮がなされ、プライバシーが十分保たれている。職員は、利用者に対し人生の先輩として、尊敬の心を持って支援や言葉掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に視力障害、意志疎通の困難な方に対し、選択肢ができる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の体調、気分に合わせて、入居者本人の希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりの気持ちを尊重し、本人の希望に合わせた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの好き嫌いを確認し、嫌いな物等がメニューにある場合は、他の物に代替えを行い対応している。 食事の盛り付け、片付けは職員と一緒にやっている。	同系列施設で専門の調理師が一括して作っている。旬の食材や差し入れなどを取り入れ、柔軟な対応をしている。利用者の力量に合わせて、盛り付けや後片付けを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い、入居者に合わせた形状(おかゆ、きざみ等)で工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前は「あ・い・う・べー」体操を行い、毎食後は歯磨きをし、舌もブラッシングを行い清潔保持に努めている。 就寝前は、義歯を洗浄液につけて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握している。 排泄チェックを用いてトイレ誘導の声掛けを行っている。	一人ひとりの排泄パターンに応じて声掛けをしている。日中は自立支援を行いながら、個々に合わせたさりげないトイレ誘導の声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用い一人ひとりの排便状態を確認している。また、水分摂取量、食物繊維の多い食べ物をおやつに取り入れ、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調や気持ち、その方のタイミングに合わせて支援を行っている。 入浴は個別に行っており、全身の観察等、きめ細かい介護ができています。	利用者や家族の希望に沿い、毎日入浴できる体制がとられている。体調に合わせ、清拭やシャワー浴などで支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調整等、一人ひとりに合わせた環境作りを行っている。 夜眠れない方に対しては、お茶を飲みながら話をしたりと対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂く薬紙をファイルに綴じ、全職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の状況に合わせて、役割分担をもつてできることを一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があれば散歩やドライブに出掛けたり、買い物へ行ったりし、自分の欲しい物を選んで頂いて、気分転換を図っている。	日常的に近隣の散歩に出掛けている。時には散歩コースを替えて変化を楽しんでいる。 ドライブや季節の花見に出掛けるなど、利用者の希望を取り入れた外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がお金の管理は難しい状況である。施設で家族より現金を1万円程度預かっており、買い物等の際には職員立ち合いの下、レジにて支払いを行っている。各自の出納帳の管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、家族からの電話は取り次ぎ、ゆっくり話して頂けるよう支援している。今後、自分で作った絵葉書で、家族に手紙を送る予定にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りを作り、飾り付け等の季節感を取り入れた空間作りを入居者と一緒に行っている。 散歩時には野花を摘み、ホールやトイレに飾っている。	天窓から柔らかな明るい光が入り、ホールは風が吹き抜ける窓がある。季節の花や作品の飾り付けを利用者と共に行っている。ホーム全体が明るく清潔感があり、利用者が家庭的な雰囲気の中で、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角にタタミがあり、昼寝をしたり、話をされたりと、思い思いに過ごして頂けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を持ち込んで頂き、家族の写真や手作りの作品を飾ったり、仏壇を持ち込まれている方もあり、個別に過ごしやすい空間を工夫している。	使い慣れたテーブルや仏壇を置いた部屋もあり、個々の生活に合わせた物が持ち込まれている。ベッドの位置や家具の配置も、利用者の希望に合わせてあり、ゆっくりくつろげる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の各箇所には手すりを設置している。2つの居室にはトイレの設置もあり、歩行時、動線上に物がないうように配慮したり、洗面台も入居者に合わせた高さとなっている。		